

令和5・6・7年度 学力向上推進拠点校指定事業(2年次)

直方市立直方第二中学校 中間報告会

学習指導案綴

研究主題

意欲的に学び、思考・判断・表現できる生徒の育成
～のおがた授業モデルと効果的なICT機器の活用
による授業改善を通して～



【公開授業】 13:25～14:15

学年・組	教科等	単元・題材名	授業者	会場
1年2組	国語科	筋道を立てて 『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ	御手洗 優菜	1年2組教室
1年3組	美術科	模様のデザイン	桑野 遥	1年3組教室
1年5組	理科	身近な物理現象(光の性質)	中森 敦也	第2理科室
2年1組	数学科	一次関数	迫田 祐吏絵 前田 織江	2年1組教室 2年2組教室
2年3組	国語科	論理を捉えて 「異なる立場から考える」	水田 翔吾	2年3組教室
2年5組	外国語科 (英語)	Homestay in the United States	濱田 早苗	2年5組教室
3年3組	国語科	いにしへの心を受け継ぐ 「君待つと一万葉・古今・新古今」	竹本 一恵	3年3組教室
3年4組	外国語科 (英語)	Be Prepared and Work Together	山岡 夏枝	3年4組教室
3年6組	社会科	現代社会を捉える枠組み	政枝 祐亮	3年5組教室

令和6年10月31日(木)

第1学年2組 国語科学習指導案

直方市立直方第二中学校
指導者 御手洗 優菜

1 単元名 筋道を立てて『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ

2 単元設定の理由

<p>〔単元の価値から〕</p> <p>生徒はこれまで、説明的な文章の学習において、段落の役割や段落同士の関係について理解しながら文章を読んだり、目的に応じて文章と図表を結び付けるなどして論の進め方やその効果について考えたりしてきた。また、説明的な文章を読んで、内容を説明したり分かったことや考えたことを伝え合ったりする活動を通して「読むこと」の力を伸ばしてきたと考える。</p> <p>本単元では、展開の中心となる意見と、それを支える根拠から構成される論理的表現に触れ、構成や展開、表現の効果についてとらえる力を伸ばしていく。本教材は仮説検証型の説明的文章であり、明確に書き分けられた意見と根拠、問題点の検証、導き出された結論によって構成されている。また、グラフや図表、写真を示す工夫もなされており、文章の構成や展開、工夫が、筆者の主張に説得力を与えることも学ぶことができる。本単元の学習を通して、原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解したり、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えたり伝えあったりすることは、明確な視点をもって物事を捉えて思考することができるようになるために大変意義深いと言える。</p>	<p>〔生徒の実態から〕</p> <p>事前アンケートによると、文章を読み、必要な部分をまとめたり、場面や心情を読み取ったり、それを基に問いに答えたりすることが満足にできる・概ねできると回答した生徒は74.3%であったのに対し、文章の構成や展開の効果について根拠を明確にしながら考えることが満足にできる・概ねできると回答した生徒は25.7%、あまりできない・全くできないと回答した生徒は74.2%であった。以上のことから「読むこと」の構造と内容の把握に比べ、精査・解釈に対して苦手意識を抱いている生徒が多いことがわかる。また、「読むこと」に関わる問題の正答率については、該当箇所を抜き出して解答する問題は75.7%、本文の言葉を用いて記述する問題は73.0%であったのに対し、自分で考えて理由を記述する問題は45.9%にとどまっていた。以上のことから、内容把握は概ねできているものの、根拠を明確にしながら考えを表現する力に課題があると考えられる。授業中も、理由や根拠を発表する際に積極的な姿勢を見せる生徒は一部であり、多くの生徒に苦手意識を抱く様子が見られる。学習に対する姿勢に関しても、毎回前向きな姿勢で授業に臨むことが満足にできる・概ねできると答えた生徒は77.2%にとどまり、2割強の生徒が意欲的に取り組めていないことがわかる。</p> <p>本単元の指導では、本文に関連する音声や動画の視聴を通して学習意欲を喚起したい。また、論の展開とその効果について考えたり、考えを伝え合ったりする活動を仕組むことで、先述した生徒の課題を解決していきたい。</p>
<p>〔単元の指導にあたって〕</p> <p>本単元では、本文の内容について観点ごとに整理したり、論の展開の効果や筆者の説明の工夫について考えたりする活動を通して、原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解する力や、文章の構成や展開の効果について根拠を明確にして考える力をつけることをねらいとしている。</p> <p>本単元の指導にあたっては、初めに、文章の構成と内容を捉えさせる。構成を捉えさせる際には、本文を「前提となる知識」「研究のきっかけと仮説」「仮説の検証1」「仮説の検証2」「結論」の5つの部分に分けさせる。内容を捉えさせる際には、教科書に記載された二次元コードを読み取り、実際にシジュウカラの鳴き声を聞かせたり、実験の様子を収録した動画を視聴させたりする【着眼1】。音声や動画の視聴により本単元の学習内容に興味関心をもたせ、学習意欲の向上につながるかと考える。次に、論の展開について観点ごとに整理させる。その際、前時に確認した「仮説の検証1・2」の内容について「検証の目的」「検証の方法」「結果」「考察・解釈」「問題点」の5つの観点で内容を読み取らせ、表にまとめさせる。さらに、論の展開とその効果について、表を参考にしながら班ごとに考えさせ、全体で交流させる。論の展開と効果を考えさせる際は、班ごとの共有ノートを活用して考えをまとめさせる【着眼2】。全体交流の際には、班でまとめさせたノートを電子黒板に映しながら発表させる。最後に、筆者の工夫についての考えを文章でまとめさせる。本単元の学習を通して、論の展開と効果を考えさせるだけでなく、班活動による考えの深まり、広がりも実感させたい。</p>	

3 単元目標

- 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。
【知識及び技能】
- 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。
【思考力、判断力、表現力等】
- 言葉がもつ価値に気づくとともに、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとしている。
【学びに向かう力、人間性等】

4 単元計画（総時数4時間）

時間	学習活動	評価規準
第一次 1時	1 本文を通読し段落の役割によって5つの部分に分け、「研究のきっかけと仮説」から、筆者がどのような事実を基にどのような仮説を立てたかを確認する。	□筆者が根拠として示した事実とそれを基に述べた意見との関係について理解している。 【知識・技能】
第二次 2時 1/2	2 仮説の検証1・2について、5つの観点で内容を読み取り、表にまとめる。	
本時 2/2	3 論の展開やその効果について、前時でまとめた表を参考にして根拠を明確にしながら班で考え、全体で交流する。	□筆者の意見とそれを支える事実に着目し、文章の構成や展開の工夫について、根拠を明確にしてとらえている。 【思考・判断・表現】
第三次 1時	4 論に説得力をもたせるための筆者の工夫について、自分の考えを文章にまとめ、共有する。	□論の展開や筆者の工夫について粘り強く考え、考えを文章にまとめて伝え合おうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】

5 本時 令和6年10月31日（木） 13:25～14:15 於：1年2組教室

(1) 主眼

5つの観点と各段落との関係について考える活動を通して、文章の構成や展開、表現の効果をもとに、根拠を明確にして筆者の工夫について説明することができるようにする。

(2) 研究の視点

【着眼1】単元や学習過程における、学習意欲を喚起するための工夫

学習意欲を喚起するため、仮説が証明されたことに納得できる理由を問いかける。

【着眼2】「一人学び」や「協働学び」における、自分の考えをつくり、広げたり、深めたりするためのICT機器の効果的な活用

「協働学び」において、論の展開やその効果についての班員の意見を集約したり、考えを深めたりするため、班ごとの共有ノートを用いて考えをまとめさせる。【考えの共有】

(3) 準備

教科書、学習プリント、タブレット、電子黒板

(4) 展開

段階	主な学習活動	指導上の留意点と評価(※)
見 通 す	1 前時の学習内容を振り返り、本時の学習課題をつかむ。	○ 学習意欲を喚起するために、これまでの学習内容を振り返らせるとともに、仮説が証明されたことについて問いかけ（「仮説は証明されたと言えるか。」「そのことに納得しているか。」「なぜ納得できるのか。」）をする。【着眼1】
	2 本時のめあてを確認する。	○ 生徒と本時の目指す姿を共有するために、生徒とのやり取りを通してめあてをつくる。
つ く る	めあて 筆者の考えに納得できる理由を探るために、論の展開に着目して、筆者の工夫を見つけよう。	
深 め る	3 「仮説の検証1」と「仮説の検証2」はどのように論が展開されているか考える。	○ 論の展開、5つの観点（検証の目的、検証の方法、結果、考察・解釈、問題点）と各段落との関係について考えさせるために、前時の表に気づき等を書き込ませる。
	4 文章の構成や展開について班で意見を交流し、考えをまとめる。	○ 考えを深めたり、集約したりするために、班の考えをまとめる際に共有ノートを活用させる。【着眼2】
	<p>予想される生徒の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 検証1、2が同じ展開になっている。 ・ 検証1、2は同じ観点で整理されている。 ・ 検証1で明らかになった問題点を検証2で解決している。 ・ 事実と意見を分けて書いている。 	<p>※ 文章の構成や展開、効果について、根拠を明確にして考え、まとめることができている。（タブレットのノートの記述）【思考・判断・表現】</p>
ま と め る	5 全体で発表する。	○ 班ごとの考えを学級全体で交流するため、班で作成した共有ノートを電子黒板に映して発表させる。
	6 本時の学習をまとめる。	
振 り 返 る	まとめ 筆者は、文章に説得力をもたせるために、意見と事実を書き分けたり、論の展開の仕方を統一したりしている。	
	7 本時の学習を振り返る。	<p>○ 本時の学習の成果を実感させるために、前時までの学習と関連付けながら評価を行う。</p> <p>○ 本時で学習したことを今後の学習につなげるために、論の展開のポイントを振り返る。</p>
	<p>予想される生徒の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 意見と事実を書き分けたり、観点を決めて論を展開したりすると、文章に説得力をもたせることができることが分かった。 	

第 1 学年 3 組 美術科学習指導案

直方市立直方第二中学校
指導者 桑野 遥

1 題材名 「模様デザイン」

2 題材設定の理由

<p>[題材の価値から]</p> <p>生徒はこれまで色の学習を通して、色みや明るさ、鮮やかさなどの性質や、色が感情にもたらす効果などについて学んできた。1 年次では、それらの色の性質や効果を形と組み合わせることで、自らの主題を心豊かに表現する造形活動を行わせたい。</p> <p>学習指導要領解説には、「創出した主題を基に、形や色彩などをどのように調和させて造形的な美しさに反映させるのかを考えながら、表現の構想を練る力」の育成が必要であると示されている。本題材では、主題をもとに形や色を意図に応じて工夫するだけでなく、美的感覚を働かせながら絵柄を構成し、更に美しい、面白いなどの表現を創意工夫して表す力が求められる。</p> <p>また、日本の伝統的な模様や美意識についても意図的に取り上げることが、日本の伝統的なデザインの良さを感じさせたり、形や色の構成にも日本の伝統や文化としての特色があることに気づかせたりすることにも繋がる。生徒の身の回りにある構成や、装飾の良さや面白さに気づかせることは、美しいものへの憧れや創意工夫の意欲へと今後発展していくこととなる。</p> <p>本題材では ICT を活用し、描画や彩色、絵柄の構成を手軽に行うことができるようにする。そうすることで、形や色などの造形要素のもつ効果の変化を実感を伴いながら理解することができると共に、試行錯誤しながら主題を追求しやすくなると考える。形や色などを意図に応じて工夫したり、構成の美しさを捉えたりすることは、形や色などの美しさに気づき、造形的な可能性を発見することへも繋がる上で非常に意義深い。</p>	<p>[生徒の実態から]</p> <p>事前アンケートによると、本学級の生徒（全 40 人）は、作品制作の際、主題に沿って形や色の構成をしていると回答した生徒は全体の 24% だった。一学期に行った平面作品の制作でも、画面の中で主題に沿って形や色を構成できている生徒は全体の 4 割程度だった。残りの 6 割の生徒は、絵柄をただ横並びに描いていたり、すべて同じ大きさで描いていたり、大きさ、向き、動き、色の性質や効果等を工夫して表現することに課題が見られた。また、ICT 機器の活用に関しては、小学校でタブレットを扱う経験はしてきているものの、ICT 機器の利点を活かし、自らの主題を追求していくといった造形活動はほとんどの生徒が行ったことがない。ICT 機器を使用した形や色などの造形要素の構成は、短時間の中で様々な構成パターンを試すことができる。どのような表し方が主題を表現するためにふさわしいかといった視点で考えを吟味することによって、主題に迫っていく過程を楽しませたい。本題材では主題をもとに、模様のデザイン制作を通して、形や色などを意図に応じて工夫し、効果的に表現ができる力を身に付けさせたい。また、昨今の子供達は日本の伝統文化に触れる機会が少ないことから、日本の伝統模様についても取り上げる。身の回りにある身近なもの（包装紙、浴衣など）を造形的な視点で見つめ、新たな気づきや発見をさせることは、美的なものを大切に、生活の中で美術の表現や鑑賞に親しんだり、生活環境を美しく飾ったりするなどの美術を愛好していく心情を養うことへと繋がる。美術を通して、心潤う生活を創造しようとする態度を養いたい。</p>
<p>[題材の指導にあたって]</p> <p>本題材では、対象の特徴や用いる場面などから創出した主題をもとに、模様のデザイン制作を行うことを通して、形や色などを表現の意図に応じて工夫し、効果的に表現ができるようにすることをねらいとしている。</p> <p>本題材の指導にあたっては、第一次では、様々な模様を比較する鑑賞活動を行う中で出てきた共通点や、美しく感じる構成のポイントから身の回りにある伝統模様や諸外国の模様のデザインの美しさを味わわせる。第二次では、大切な人へ送る封筒の模様のデザインをするということを仮定し、デザインの構想を練らせる。創出した主題をもとに、色や形を工夫しながら模様を作るための素材となる絵柄をタブレットのペイント 3D で描く。第三次では、主題をもとに前時に制作しておいた絵柄を構成して模様の構成を行う。見通す場面では、制作意欲を高めるために、絵柄をただ並べた時と、絵柄の構成を意識して模様にした時とを比較させ、印象の違いを感じ取らせる。その際、同じ絵柄でも構成の仕方に</p>	

よって効果的な表現ができることをイメージさせる。【着眼1】。また、パワーポイント内
 ができる「大きく」「小さく」「回転」「反転」などの表現方法について確認し、提示する
 ことで表現の幅を広げることができる【着眼2】。自分の考えをつくる段階で表
 現方法を工夫し主題を表現できているか、より美しく感じる構成にする方法はないかとい
 う視点で、制作しながらの意見交流を促し、制作時間を確保しつつ、主題や美しさを追求
 させたい。第四次では、完成した作品の鑑賞活動を行う。

本題材を通して、今後の中学校美術の学習に向けての意欲をもたせるために、美術を好
 み楽しむことをはじめ、生活における心の潤いと生活を美しく改善していく心を育み、美
 術を愛好する心情も養いたい。

3 単元の目標

- 造形要素の働きを理解するとともに、表現の意図に応じて形や色を工夫し、創造的に表
 示することができる。 【知識及び技能】
- 対象の特徴や使う場面などを考えて主題を見つけ、主題を基に表現の構想を練ることが
 できる。 【思考力、判断力、表現力等】
- 構成の美しさや生活を豊かにする模様のデザインに関心をもち、自分の考えや見方を大
 切にしながらか制作や鑑賞に取り組もうとしている。 【学びに向かう力、人間性等】

4 単元計画（総時数7時間）

時間	学習活動	評価規準
第一次 1時	1 様々な模様を比較する鑑賞活動を行い、共通点や美しく感じる構成のポイントを探し、身の回りにある伝統模様や諸外国の模様のデザインの美しさを味わう。	□鑑賞活動を通して見つけた共通点や構成の美しさについて、ワークシートに記述している。 【主体的に学習に取り組む態度】 □形や色の共通点や、美しく感じる構成のポイントから作品の美しさを味わうことができる。 【思考・判断・表現】
第二次 3時	2 自分や身近に居る人の特徴を捉えたり、使う場面を想像したりして主題を見つける。主題を基に、色や形を工夫しながら模様を作るための素材となる絵柄の構想を練り、タブレットで描く。	□対象の特徴や使う場面から主題を見つける（言葉や絵で表現する）ことができる。【思考・判断・表現】 □造形要素の働きを理解するとともに、表現の意図に応じて形や色を工夫し、絵柄を描くことができる。 【知識・技能】
第三次 2時 本時 1/2	3 美しく感じる構成のポイントについて確認し、主題をもとに模様の構成を行う。	□表現の意図に応じて模様の構成を工夫しながら構想を練ることができる。 【思考・判断・表現】
第四次 1時	4 完成した模様作品を封筒にし、模様作品の鑑賞活動を行う。	□主題を基に、友達の作品の美しさや工夫点を見つけ、見方・考え方を広げている。【思考・判断・表現】

5 本時 令和6年10月31日(木) 13:25~14:15 於:1年3組教室

(1) 主眼

主題を基に模様の構成を行う活動を通して、形や色の配置を工夫した効果的な表現の構想を練ることができるようにする。

(2) 研究の視点

【着眼1】 単元や授業過程における、学習意欲を喚起するための工夫

同じ絵柄でも構成の仕方によって効果的な表現ができることをイメージさせるために、絵柄をただ並べた時と、絵柄の構成を意識して模様にした時の印象の違いを感じ取らせる。

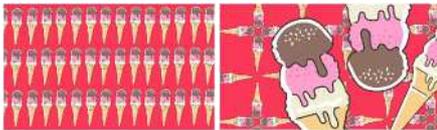
【着眼2】 「一人学び」や「協働学び」における、自分の考えをつくり、広げたり、深めたりするための ICT 機器の効果的な活用

表現の幅を広げさせるために、パワーポイント内で手軽に行える「大きく」「小さく」「回転」「反転」などの表現方法を確認し、制作の際に活用させる。【活動の効率化】

(3) 準備

教科書、タブレット、ワークシート、電子黒板

(4) 展開

段階	主な学習活動	指導上の留意点と評価(※)
見 通 す	<p>1 前時までの制作過程を振り返り、制作への見通しをもつ。</p> <p>2 同じ絵柄で制作された異なる模様作品を比較する。</p>  <p>3 パワーポイントで絵柄を構成する際に使用できる表現方法の工夫について確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>移動する 大きくする・小さくする コピーする・ペーストする 回転する・反転する 重ねる・くっつける 前に出す・後ろにする</p> </div> <p>4 本時のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>めあて 自分のテーマを表現するために絵柄の構成を工夫し、模様を作ろう。</p> </div>	<p>○ 制作への見通しをもつことができるように、前時までに制作した素材となる絵柄について振り返りを行う。</p> <p>○ 制作意欲を高めるために、絵柄をただ並べた時と、絵柄の構成を意識して模様にした時の印象の違いを感じ取らせることで、同じ絵柄でも構成の仕方によって効果的な表現ができることをイメージさせる。【着眼1】</p> <p>○ 表現の幅を広げ、試行錯誤しながら模様の構成ができるように、パワーポイントで「大きく」「小さく」「回転」「反転」などの表現方法の工夫について確認を行う。【着眼2】</p> <p>○ 制作時に確認しやすいよう、表現方法をまとめたプリントを配付する。</p>
つ く る	<p>5 パワーポイントを用いて模様の制作を行う。</p>	<p>○ テーマを意識して制作させるために、制作を行う前にテーマや主題をもう一度確認させるようにする。</p>

深める	6 制作と同時並行で意見交流を行う。	○ 主題をさらに追求できるように、早く制作が終わった生徒には、違うパターンで新たに制作を行わせる。
まとめる	7 完成した作品をロイロノートで提出、または途中保存する。	○ 制作時間を確保しつつ、主題や美しさを追求しやすくするために、つくる段階で、表現方法を工夫し主題を表現できているか、より美しく感じる構成にする方法はないかという視点で、制作しながらの意見交流を促す。 ※ 表現の意図に応じて表現方法を工夫しながら模様の構成を構想することができる。(ロイロノートに提出された作品データ)【思考・判断・表現】
まとめる	8 本時の学習をまとめる。	○ 制作への意欲を低下させないために、意見交流では作品の良いところを伝えさせ、批判ではなく、アドバイスを伝えるようにさせる。 ○ まとめへと繋げるために、自分のテーマを上手く表現出来ている生徒を取り上げ紹介する。
振り返る	9 本時の学習をワークシートに振り返る。	○ 次の制作への見通しをもたせるために、上手くいったことや上手くいかなかったこと、その要因についての記述をさせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>まとめ 表現の幅を広げる（大きく、回転など）など、表現方法を工夫することで、美しい模様をつくることができる。</p> </div>		

第1学年5組 理科学習指導案

直方市立直方第二中学校
指導者 中森 敦也

1 単元名 「身近な物理現象(光の性質)」

2 単元設定の理由

<p>[単元の価値から]</p> <p>生徒はこれまで、小学校第三学年で光を反射させる実験を通して、光は集めたり、反射させたりすることができるということについて学んでいる。</p> <p>学習指導要領解説には、理科の見方・考え方を働かせ、光や音、力についての観察、実験などを行い、身近な物理現象を日常生活や社会と関連付けながら理解させるとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けさせ、思考力、判断力、表現力等を育成することが主なねらいである、と示されている。「ものが見える」という当たり前の現象は光の乱反射によるものであるが、普段の生活の中で生徒たちはこの現象を認識していない。そこで、身近なものを使って観察、実験を行うことで、目に見えるさまざまな事物・現象は光が反射や屈折をすることで起きていることに気づかせたい。</p> <p>本単元は、鏡に自分の姿を映すなどの日常生活では当たり前の現象をもとに、目では見えていない光の道筋を作図して説明させるという場面を多く設定することができるので、科学的な見方や考え方をはたらかせ、思考力、判断力、表現力を育成するためにも大変意義深い単元である。</p>	<p>[生徒の実態から]</p> <p>事前アンケートによると、本学級の生徒(39名)のうち、理科の学習について31人の生徒が興味があると回答している。その理由としては、「小学校のときから好きだった」「日々の暮らしで必要だと感じる」という理由が多かった。一方で「小学校よりも内容が難しい」「日常生活とのつながりが感じられなくなった」という声も多かったので、日常場面での事物・現象から導入を行い、興味・関心を高め、授業の見通しを持たせる工夫が必要だと考えた。</p> <p>また、アンケートの「ものが見えるのはなぜか」という項目では、「目があるから」と答える生徒が多く、光について回答している生徒は2人しかいなかった。小学校での既習内容である「鏡に光が当たると反射する」ということは、全ての生徒がわかっているが、「鏡に自分の姿が映るのはなぜか」という項目に答えられた生徒はいなかった。これらのことより、当たり前のように目にしている鏡に映る像の見え方を考えるという課題を設定し、見通しを持たせたい。そこから光の性質を考えさせることで、興味・関心を高め、日常生活の経験と理科の内容を結び付けて考えさせたい。</p>
<p>[単元の指導にあたって]</p> <p>本単元では、日常生活や社会と関連付けながら光に関する身近な物理現象の基礎についての観察・実験を行い、その規則性に気付かせ、理解させることをねらいとしている。</p> <p>本単元の指導にあたっては、第一次では、ものの見え方について「光の進み方」をもとに理解させ、ものの表面ではね返った光が目に入ることでものが見えていることを見いださせる。第二次では、鏡に光を反射させる実験を通して、入射角と反射角が等しくなることを見いださせる。また全身を映すことができる一番小さな鏡の大きさを調べる実験を行い、光の道筋を作図し、説明させる。そのために、まず小さな鏡と大きな鏡に映る姿の違いを観察させ、興味・関心をもたせることで、生徒の学習意欲を引き出す【着眼1】。考えを深める段階でロイロノートを用いてヒントカードを配布することで、一人一人が考えを作りやすくする【着眼2】。第三次では、光の屈折の実験を行い、光が水やガラスなどの物質の境界面で屈折するときの規則性を見いだして理解させる。そのために、日常生活で経験する目の錯覚を取り上げ、生徒に課題意識をもたせる。第四次では、凸レンズの働きについての観察、実験を行い、物体の位置と像のでき方との関係を見いだして理解させる。</p> <p>これらの活動により、生徒に光の反射や屈折、凸レンズの働きが日常生活や社会と深く関係していることを実感させながら、関連性を意識した指導を通して、身近な物理現象についての見方や考え方を育成していきたい。</p>	

3 単元の目標

- 光に関する事物・現象を日常生活や社会と関連付けながら、光の反射や屈折、凸レンズの働きを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けることができる。 【知識及び技能】
- 光について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、光の反射や屈折、凸レンズの働きの規則性や関係性を見いだして表現することができる。 【思考力、判断力、表現力等】
- 光に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】

4 単元計画（総時数7時間）

時間	学習活動	評価規準
第一次 1時	1 煙等を用いて、光の道筋を観察し、「光の進み方」や「ものの見え方」を理解する。	□ものの見え方について、自ら進んで関わり、主体的に取り組もうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】
第二次 2時 1/2	2 光を鏡に当てる実験を通して光の道筋を記録し、入射角と反射角には規則性があることを見いだす。	□光の反射の実験を通して、入射角と反射角の関係について「反射の法則」を見いだしている。 【思考・判断・表現】
本時 2/2	3 全身を映すことができる一番小さな鏡の大きさを調べる実験を行い、光の道筋を作図し、説明する。	□光の反射の規則性や関係性をもとに、全身を映すための鏡は身長の半分の大きさが必要であることを説明している。 【思考・判断・表現】
第三次 2時	4 光の屈折の実験を行い、光が水やガラスなどの物質の境界面で屈折するときの規則性を見いだして理解する。	□光の屈折の実験を見通しをもって行い、光の屈折の規則性を見いだして表現している。 【思考・判断・表現】
第四次 2時	5 凸レンズの働きについての観察、実験を行い、物体の位置と像のでき方との関係を見いだして理解する。	□凸レンズの働きについての実験を行い、物体の位置と像のでき方との関係を見いだして理解する。 【知識・技能】

5 本時 令和6年10月31日（木） 13:25～14:15 於：第二理科室

(1)主眼

光の反射の規則をもとに、光の道筋を作図する活動を通して、自分の全身を映すために必要な鏡の大きさを考え、説明できるようにする。

(2) 研究の視点

【着眼1】 単元や授業の過程における、学習意欲を喚起するための工夫

生徒の学習意欲をもたせるために、小さな鏡と姿見の鏡の前に立たせ、「全身を映すためにはどれくらいの大きさの鏡が必要だろうか」という課題を提示する。

【着眼2】 「一人学び」や「協働学び」における、自分の考えをつくり、広げたり、深めたりするためのICT機器の効果的な活用

「一人学び」において、生徒が考えをつくる時の手立てとするために、レベル別のヒントカードをロイロノートで配布する。【情報の整理】

(3) 準備

教科書、学習プリント、ファイル、タブレット、姿見の鏡、スタンド鏡、人型のイラスト

(4) 展開

段階	主な学習活動	指導上の留意点と評価(※)
見通す	1 前時の振り返りを行い、本時の見通しをもつ。 ・前時の振り返り 入射角=反射角	○ 「光の反射」の規則性を想起させるために、前時の学習を振り返らせる。
	2 日常生活で鏡を使う場面を想起し、課題を把握し、本時のめあてを立てる。	○ 授業の学習意欲をもたせるために、小さな鏡と大きな鏡の前に立たせ、全身が映るかどうか確認させる。【着眼1】 ○ 生徒と本時で目指す姿を共有するために、生徒とのやり取りを通してめあてをつくる。
つくる	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【めあて】 全身を映すためにはどれくらいの大きさの鏡が必要か、光の道筋を作図して、説明することができるようになる。 </div> 3 めあてに対し予想をする。 予想される生徒の反応 ・体をそのまま映さないといけないから身長と同じ大きさの鏡が必要。 ・鏡から離れれば、どんなに小さな鏡でも全身が映りそう。	○ 見通しをもって実験をさせるために、「鏡の大きさ」に着目させて、予想させる。 ○ 多くの意見を出させるために、体験や感覚を踏まえた予想でもかまわないことを促し予想させる。
	4 実験を行う。 (1) 人型のイラストを用いて、頭から足先まで見える鏡の大きさを測定し、記録する。	○ 班員全員が一度に1人の視点で実験を行うことができるようにするために、タブレットのカメラを通して鏡に映ったイラストの姿で実験させる。

<p>深める</p> <p>まとめる</p> <p>振り返る</p>	<p>結果の例</p>					
	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="277 293 544 331">イラストの大きさ</td> <td data-bbox="544 293 790 331">必要な鏡</td> </tr> <tr> <td data-bbox="277 331 544 369">20 cm</td> <td data-bbox="544 331 790 369">10 cm</td> </tr> </table>	イラストの大きさ	必要な鏡	20 cm	10 cm	
	イラストの大きさ	必要な鏡				
	20 cm	10 cm				
	<p>(2) 実験結果を全体で共有する。</p>	<p>○ 全体で考察を行うために、全身を映すのに必要な鏡の大きさは、身長のお半分であることを確認する。</p>				
	<p>(3) 実験結果が正しいか、実際の姿見の鏡で確かめる。</p>	<p>○ イラストで行った実験が正しいと実感させるために、姿見の鏡で全身を映すために必要な鏡の大きさを確かめさせる。</p>				
	<p>5 実験結果をもとに、なぜ身長のお半分で全身が見えるか考察をする。</p> <p>(1) 個人で考察する。</p>	<p>○ 一人一人に考えを作らせるために、レベルごとのヒントカードを用意し、生徒のレベルに応じて配布する。【着眼2】</p>				
<table border="1"> <tr> <td data-bbox="277 904 790 1106"> <p>予想される生徒の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足の光が目には届くには、足と目の距離のお半分のところに鏡が必要。 ・頭の光が目には届くには、頭と目の距離のお半分のところに鏡が必要。 </td> </tr> </table> <p>(2) 班で考えをまとめる。</p> <p>(3) 全体で班ごとに発表する。</p>	<p>予想される生徒の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足の光が目には届くには、足と目の距離のお半分のところに鏡が必要。 ・頭の光が目には届くには、頭と目の距離のお半分のところに鏡が必要。 	<p>○ それぞれの班の考察を比較しやすくするために、班ごとの考察をロイロノートで提出させる。</p>				
<p>予想される生徒の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足の光が目には届くには、足と目の距離のお半分のところに鏡が必要。 ・頭の光が目には届くには、頭と目の距離のお半分のところに鏡が必要。 						
<p>6 本時のまとめをする。</p>	<p>○ 本時の学びを実感させるために生徒の言葉でまとめを作る。</p>					
<table border="1"> <tr> <td data-bbox="277 1368 790 1473"> <p>【まとめ】 光の道筋の作図（入射角＝反射角の関係）より、身長のお半分の大きさの鏡があれば、全身を映すことができる。</p> </td> </tr> </table>	<p>【まとめ】 光の道筋の作図（入射角＝反射角の関係）より、身長のお半分の大きさの鏡があれば、全身を映すことができる。</p>					
<p>【まとめ】 光の道筋の作図（入射角＝反射角の関係）より、身長のお半分の大きさの鏡があれば、全身を映すことができる。</p>						
<p>7 本時の学習を振り返る。</p>	<p>※ 全身を映すためには、身長のお半分の大きさの鏡が必要であることを光の道筋を作図して説明することができている。 (学習プリントの記述、発表)</p> <p style="text-align: right;">【思考・判断・表現】</p> <p>○ 今後の学習につなげるために、振り返りを行わせる。</p>					

第2学年1組 数学科学習指導案

直方市立直方第二中学校
指導者 迫田 祐吏絵
前田 織江

1 単元名 「一次関数」

2 単元設定の理由

<p>【単元の価値から】 関数は、動的な対象を考察する際に用いられる抽象的な概念であり、現実の世界の事象における伴って変わる二つの数量の関係を捉える場面において有効に機能する。二つの数量の関係を捉えることができれば、関数を活用して変化や対応の様子を考察したり、未知の状況を予測したりすることが可能になる。情報化やグローバル化等により社会的変化が急速に進展していく中で、中学校学習指導要領解説数学編では、数学科の目標として、「数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う」ことが示されている。</p> <p>本単元は、具体的な事象の中から二つの数量を取り出し、それらの変化と対応を調べることを通して、関数関係を見だし、表現し考察する力を養う。また、事象を数理的にとらえ、論理的に考察するとともに、第1学年の比例の学習の発展として、数量関係を表、式、グラフに表し、相互に関連付けながら、一次関数の特徴について理解を深めていく学習である。</p> <p>本単元の学習は、様々な事象の中に潜む関数関係を見だし、二つの数量関係について、変化や対応の特徴を考察し表現する力を育てる上では大変意義深いと考える。</p>	<p>【生徒の実態から】 事前アンケートによると、本学級の生徒（全 34 人）は数学の学習について「日常生活に役立っていると思う」と回答した生徒の割合が 70%であるのに対し、「関数の学習は日常生活に役立っていると思う」と回答した生徒は 24%であった。すなわち、数学科の学習自体には有用性を感じているものの、関数の学習については有用性を感じることができていない。また、1年次の学年末の業者テストの結果から、関数の内容においては、平均正答率が 34%であり、関数の学習を苦手としていることがわかった。このことから、関数についての基礎的な概念や性質を理解させるとともに、一次関数を活用して日常生活の問題を解決し、関数の有用性を実感する場の設定が必要であると考えられる。</p> <p>また、本学級は小集団活動において意見交流や教え合いが活発に行われている。しかし、自分の考えを筋道立てて説明できる生徒は少ない。交流活動に対して苦手意識をもつ生徒の主な理由は「自分の考えに自信がもてないから」「教えたり、伝えたりすることが苦手だから」というものである。これらのことから、自分の考えを分かりやすく筋道立てて説明する力を育てるために、効果的に小集団活動を取り入れ、自分の考えを確かなものにし、自分の考えを他者に説明する場を設定する。</p>
<p>【単元の指導にあたって】 本単元では、一次関数についての知識及び技能を身につけさせ、具体的な事象を表、式、グラフを用いて考察し表現できるようにすることをねらいとしている。</p> <p>本時の指導にあたっては、第一次では、まず日常の事象の中に一次関数として捉えられるものがあることを理解できるようにする。ここでは、日常の事象を用いて、二つの数量関係が一般的に $y = ax + b$ という式で表されることに気付かせ、一次関数の必要性を実感させる。次に、一次関数の特徴を表、式、グラフを用いて理解できるようにする。ここでは、変化の割合 a が常に一定でありグラフの傾きと等しいことや、定数 b が $x = 0$ に対応する y の値でありグラフの切片と等しいことを確認する。</p> <p>第二次では、二元一次方程式を、関数を表す式として捉えることができるようにする。ここでは、式を変形したり、解を座標平面上に表したりすることで二元一次方程式が一次関数とみることができることを確認し、連立二元一次方程式の解が2直線の交点の座標になることを理解させる。</p> <p>第三次では、日常の事象や社会の事象及び数学の事象を、一次関数を用いて考察し表現することができるようにする。ここでは、移動する二人の出会う場所を表、式、グラフを用いて説明する活動を通して、判断の根拠や予測が可能である理由を説明する力を養う。そのために、まず、主体的に問題に取り組むことができるように、情報を省略した問題を提示し、不足している情報について生徒と問答する【着眼1】。次に、小集団活動を効果的に設定し、考えを付加・修正する場などを設ける。最後に、より数学的な表現を用いた解説に繋げるために、ロイロノートに提出された解説を紹介し、良い点や不足している点を確認する【着眼2】。また、考えを比較し、目的に応じて表、式、グラフを使い分けることの大切さに気付かせたい。</p>	

3 単元目標

- 一次関数について理解し、事象の中には一次関数として捉えられるものがあることを理解することができる。 **【知識及び技能】**
- 一次関数として捉えられる2つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連づけて考察し表現することができる。また、一次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。 **【思考力、判断力、表現力等】**
- 具体的な事象に関する観察や実験の結果を一次関数とみなすことによって、未知の状況を予測しようとしている。その際、判断の根拠や予測が可能である理由をお互いに説明しようとしている。 **【学びに向かう力、人間性等】**

4 単元計画（総時数13時間）

時間	学習活動	評価規準
第一次 7時	一次関数とグラフ 1 ともなって変わる x と y の量を一次関数として表現する。 2 一次関数を表で捉え、 x の増加量、 y の増加量、変化の割合について理解する。 3 一次関数をグラフで捉え、傾き、切片について理解する。 4 グラフから傾きと切片を読み取り、一次関数の式を求める。	<input type="checkbox"/> 一次関数を、表・グラフ・式で表すことができる。 【知識・技能】 <input type="checkbox"/> グラフから一次関数の式を求めることができる。 【知識・技能】
第二次 3時	一次関数と方程式 5 二元一次方程式を一次関数として捉え、グラフに表す。 6 2つの方程式のグラフをかき交点の座標を求めることと、連立二元一次方程式の解を求めることを結び付ける。	<input type="checkbox"/> 二元一次方程式を一次関数として捉え、グラフで表すことができる。 【知識・技能】 <input type="checkbox"/> 二元一次方程式を一次関数として捉え、交点の座標を求めることができる。 【知識・技能】
第三次 3時 1/3	一次関数の利用 7 一次関数を利用して、問題発見・解決する。 水槽の例を一次関数として捉える。	<input type="checkbox"/> 具体的な事象を、表・グラフ・式で表すことができる。 【思考・判断・表現】 <input type="checkbox"/> 一次関数について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】
本時 2/3	8 一次関数を利用して、問題発見・解決する。 具体的な人物の移動を一次関数として捉える。	<input type="checkbox"/> 二人の人物が出会う場所を、表・グラフ・式をもとに説明できる。 【思考・判断・表現】
3/3	9 動く点にともなって変わる面積について、一次関数を利用して理解を深め、問題解決する。	<input type="checkbox"/> 動く点にともなって変わる面積についてグラフ・式で表すことができる。 【思考・判断・表現】

5-1 本時 令和6年10月31日(木) 13:25~14:15 於:2年1組教室

(1) 主眼

移動する二人の会う場所を調べる活動を通して、問題解決の過程を一次関数の表、式、グラフを用いて説明することができるようにする。

(2) 研究の視点

【着眼1】 単元や授業過程における、学習意欲を喚起するための工夫

主体的に問題に取り組むことができるように、情報を省略した問題を提示し、どのような情報が不足しているかを生徒に考えさせる。

【着眼2】 「一人学び」や「協働学び」における、自分の考えをつくり、広げたり、深めたりするための ICT 機器の効果的な活用

自分の考えをもつことができるように、前時の学習内容(ロイロノートの提出箱)を参考にして考えさせる。**【データの蓄積】**

より数学的な表現を用いた解説に繋げるために、ロイロノートに提出された解説を紹介し、良い点や不足している点を確認する。**【考えの共有】**

(3) 準備

教科書、学習プリント、タブレット、電子黒板

(4) 展開

段階	主な学習活動	指導上の留意点と評価(※)
見 通 す	1 前時の学習内容を振り返り、本時の学習課題をつかむ。 (1) 学習問題を確認する。	○ 問題場面を理解しやすいように、情報を省略して問題を提示する。
	<p>【学習問題】 けいたさんは、午前9時に家を出発し、店で買い物をし、おじさんの家まで行きました。おじさんは午前10時に家を出て、けいたさんを自転車で迎えに行きました。けいたさんとおじさんが出会うのはどこでしょうか。</p>	
	(2) 不足している情報を推測し、学習課題をつかむ。	○ 主体的に問題に取り組むことができるように、どのような情報が不足しているかを生徒と問答する。 【着眼1】
	<p>・けいたさんは分速100mで3km先の店に向い、20分買い物をした。 ・買い物した後、分速50mで2km先のおじさんの家に向かった。 ・おじさんは出発して5分後に1km離れた公園の前を通った</p>	
	2 二人の会う場所を予想し、解決の見通しを持つ。	○ 解決の見通しが持てるように、二人の移動の様子を動画で見せ、出会う場所について3つの選択肢を与える。
	<p>①けいたさんの家から店との間 ②店 ③店とおじさんの家の間 →表やグラフ、式を使えば調べられる。</p>	
	3 本時のめあてを確認する。	○ 生徒と本時の目指す姿を共有するために、生徒とのやり取りを通してめあてをつくる。
	<p>めあて 二人が出会う場所の求め方を表やグラフ、式を使って説明しよう。</p>	

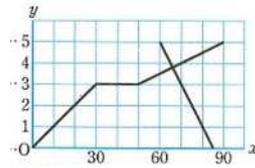
つくる

4 二人の会会う場所について考察する。

○ 自分の考えをもつことができるように、前時の学習内容（ロイロノートの提出箱）を参考にしてよいことを伝える。【着眼2】

時間	50	60	70	80
け	3	3.5	4	4.5
お		5	3	1

グラフ



二人が会会うのはグラフの交点。
y座標の値はおおよそ 3.8 なので、
けいたさんの家から
おおよそ 3.8km 地点で会おう。

式

(グラフから) けいたさんとおじさんの式はそれぞれ、
 $y = \frac{1}{20}x + \frac{1}{2}$, $y = -\frac{1}{5}x + 17$
 これらを連立方程式とみて解くと、
 $(x, y) = (66, \frac{19}{5})$
 けいたさんの家から $\frac{19}{5}$ km 地点

けいたさんとおじさんの距離の値が入れ替わるのは、けいたさんが家から 3.5~4km 進むときなので、けいたさんの家から 3.5~4km 地点で会おう。

深める

5 同じ方法（表・グラフ・式）ごとに分かれて意見交流する。

○ 自分の説明を納得のいくものにするために、同じ方法で考えたグループに分けて、付加修正する場を設定する。

6 元の班に戻って自分の考えを説明する。（説明後、ロイロノートに提出）

○ 自分の考えが他者の納得を得られるものであるかを確認するために、小集団で説明し合う場を設定する。

7 表、グラフ、式のそれぞれの方法を用いた説明を全体で共有する。

○ より数学的な表現を用いた説明に繋げるために、ロイロノートに提出された解説を紹介し、良い点や不足している点を確認する。【着眼2】
 ※ 表やグラフのどこに着目したのか、式をどのように用いたのかを説明することができる。（ロイロノートに提出されたシートの記述内容）
【思考・判断・表現】

まとめる

8 本時の学習をまとめる。

まとめ 二人の会会う場所の求め方は次のように考えることで説明できる。
 表では（値が入れ替わる場所に注目する）
 グラフでは（2直線の交点のy座標を読み取る）
 式では（2つの式を求め、連立方程式の解を求める）

振り返る

9 本時の学習を振り返る。

正確な値が分からなかったけれど、連立方程式を解くことで、正確な値を求めることができた。

○ 本時で学習したことを今後の学習につなげさせるために、授業前後の自身の変容を振り返らせる。

5-2 本時 令和6年10月31日(木) 13:25~14:15 於:2年2組教室

(1) 主眼

移動する二人が出会う時間と場所を調べる活動を通して、事象を一次関数として捉え、グラフに表して交点の座標をもとに考察できるようにする。

(2) 研究の視点

【着眼1】単元や授業過程における、学習意欲を喚起するための工夫

生徒に学習意欲をもたせるために、視覚的に理解しやすいグラフの学習にしぼり、既習事項(原点から一直線の比例表現)では表すことができない移動を題材とする。

【着眼2】「一人学び」や「協働学び」における、自分の考えをつくり、広げたり、深めたりするためのICT機器の効果的な活用

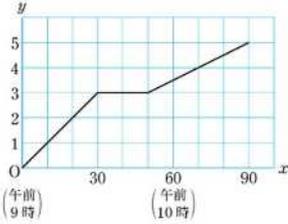
時間と場所がわかればグラフ化することができることに気付かせるために、デジタル教科書の動画を活用し、移動する人物にともなってグラフ上の点も移動する様子を見せる。

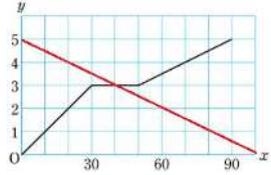
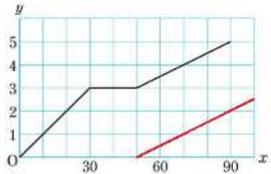
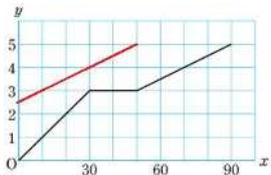
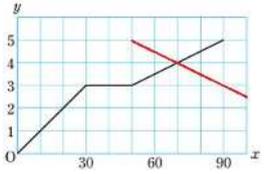
【情報の整理】

(3) 準備

教科書、学習プリント、電子黒板

(4) 展開

段階	主な学習活動	指導上の留意点と評価(※)
見通す	1 1年生の既習内容を振り返り、学習課題をつかむ。	○ 既習事項との違いを確認するために、グラフはこれまでどおり一直線になるかどうか考えさせる。【着眼1】
	<p>けいたさんは、午前9時に自分の家を出発して、途中にある店で買い物をしてから、おじさんの家まで行きました。</p> <p>けいたさんのグラフの読み取りを行う。</p> 	<p>○ グラフが表すものを確認するために、動画をいくつかの段階に分け、時間、場所にそれぞれ注目させながら動画を見せる。【着眼2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・x軸が表しているものは何か。 ・y軸が表しているものは何か。 ・けいたさんの家、店、おじさんの家はグラフのどこに表されているか。 ・店には何分滞在していたか。
	<p>【学習問題】</p> <p>おじさんは午前9時50分に家を出発して、けいたさんをむかえに行くことにしました。おじさんは、家を出発してから10分後に家から500m離れた公園の前を通りました。けいたさんとおじさんが出会う地点はどこで、午前何時何分でしょうか。</p>	<p>○ 何を求めればよいか見通しをもたせるために、おじさんの移動の様子をグラフにかき入れれば、あとは交点を読みとればよいこ</p>

	2 本時のめあてを確認する。	とを確認する。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>めあて けいたさんのグラフにおじさんのグラフをかき入れ、交点の座標をもとにふたりの出会う地点と時間を求めよう。</p> </div>	
つくる	3 おじさんの移動の様子を同一グラフ上に表現する。 (1) 個人の考えをつくる。	○ おじさんの情報を整理するために、けいたさんの動画を利用し、おじさんが家を出発するタイミングと移動する方向を確認する。
深める	<p>予想される生徒の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・線はy軸(おじさんの家)から出発すると考えたもの  <ul style="list-style-type: none"> ・線はx軸(9時50分)から出発すると考えたもの  <ul style="list-style-type: none"> ・出発点は正しいが、「迎えに行く」ことからスタート方向へ線がのびたもの 	<p>【着眼2】</p> <p>※ おじさんが出発する点を地点と時間に着目して表現し、おじさんの移動とグラフの x 軸 y 軸があらわす内容とを正しく照らし合わせることで線の方角を定め、おじさんの移動を正しくグラフに表現することができている。(学習プリントの記述)</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>○ 思考のきっかけを作るために、生徒から考えがでにくい場合には、以下を確認することで情報を整理させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出発する時間(9時50分)と、おじさんの家(5km)とを同時に満たす点をさがす。 <ul style="list-style-type: none"> ・おじさんは、おじさんの家からけいたさんの家へ向かうので、線は下方向へ伸びる。 ・10分で500m進むなら、20分で1km進む。  <p>○ 学習問題に沿って答えるために、読み取った座標のままでは使えないことを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・×70分 ○午前10時10分 ・×4km ○けいたさんの家から4km
まとめる	<p>(2) ペアで考えをつくる。</p> <p>(3) 全体で発表する。</p> <p>4 ふたりの出会う時間と場所を読み取る。</p> <p>5 本時の学習をまとめる。</p>	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>まとめ 出発する地点と時間によっては、原点を通らない直線になる場合がある。グラフの交点を求めることで、ふたりの出会う地点と時間を求めることができる。</p> </div>	
振り返る	6 4段階評価と記述で、本時の学習を振り返る。	○ 本時で学習したことを今後の学習に繋げるために、授業内での自身の変容を振り返らせる。

第2学年3組 国語科学習指導案

直方市立直方第二中学校
指導者 水田 翔吾

1 単元名 論理を捉えて「異なる立場から考える」

2 単元設定の理由

<p>[単元の価値から]</p> <p>SNS が普及している現代社会は、自分の考えや思いを発信しやすくなった。同時に他者の考えや思いを目にする機会も格段に増えている。このような世の中で他者と協働して課題を解決していく力や複雑な状況変化の中で考えを再構築していく力が求められている。</p> <p>学習指導要領解説には、結論を導くために考えをまとめる時には一方的に自分の考えを主張するのではなく、互いの考えを捉える中で見出した共通点や相違点、新たな提案などを踏まえて話し合うことが重要であると示されている。</p> <p>本教材では、一つのテーマを、異なる立場から多角的に検討することで、自分の考えの幅を広げ、説得力のあるものにすることをねらいとしている。1年時で学習した、根拠を示しながら自分の考えを形成することに加え、2年時では、異なる立場の考えも踏まえながら、自分の考えを形成できるようにしたい。そのために、提示されたテーマに対して生徒が「賛成」「反対」のどちらの立場なのかを決め、根拠を明確にする。そして、異なる立場の考えを想定し、その反論を考えさせることで、自分の考えの幅を広げさせたい。また、根拠の適切さについて再考させることや一人一人が考えたことを共有する活動を通して、様々なものの見方や考え方に触れさせたい。根拠になり得る情報の取捨選択だけでなく、様々な視点から物事を考える力の向上を図るためにも本単元の学習は大変意義深いと考える。</p>	<p>[生徒の実態から]</p> <p>授業中の返答や生徒同士の日常会話を聞いていると、何の脈絡もなく別の話をはじめたり、根拠も無いまま自身の意見を述べたりしていることが散見される。</p> <p>事前アンケートによると、「物語」「説明文」「文法」「漢字」の中で、一番苦手なものはどれですかという問いに、「説明文」が一番苦手だと答えた生徒は、全体の46%であった。何が苦手かという問いに対しては「読み解くことができない」、「何が根拠になっているか分からない」という回答があった。</p> <p>そこで、根拠が示されているかどうかを問う問題を出した。その結果、正答率が20%と低い正答率だった。結果が低かった理由は、根拠が主観や感情だけで構成されていてもよいと判断しており、根拠の適切さを吟味していないからであると考えられる。一方で、自分の意見を述べる際には根拠が必要であると感じている生徒は96%であった。このことから、意見には根拠が必要であるが、何が適切な根拠となり得るかを理解できていないと考えられる。</p> <p>物事には異なる捉え方や考え方があることを友人との意見交流を通して理解し、一人では気づくことのできなかつた視点から物事を捉えさせたい。また、話し合いの基本を習得することで自身の考えを伝える能力の向上や、適切な根拠を考える力を養いたい。そして、国語の授業が日常生活にも活かすことができることを実感させたい。</p>
<p>[単元の指導にあたって]</p> <p>本単元では、他の人の意見や考え方に触れることで、新たな視点や多様な捉え方があることに気づき、物事を多角的に検討し、自分の考えを伝える活動を通して、意見に対する根拠の適切さや妥当性について考える力を身につけることをねらいとしている。</p> <p>本単元の指導にあたっては、第一次では、討論のテーマに沿った情報を集め、整理する。そして、自分の立場を明確にして意見と根拠をまとめさせる。その際に、根拠の適切さを実感させるために、意見と根拠の結びついていない例を示して、違和感に気付かせたい【着眼1】。また、「協働学び」の段階で個人の考えを共有ノートに書きこむことで、違う視点からの考えや、一人では考えつかない意見に触れることができるようにする【着眼2】。第二次では、集めた情報をもとにして討論を行う。そのために、討論の流れを確認してから活動に入る。ここでは、反対の立場の考えも予想し、それに対する答えも考えさせたい。第三次では、討論の内容を振り返り、根拠の適切さについて再考させる。その際、討論の内容を振り返るために、討論の録画や共有ノートのログ等を用いる。</p> <p>本単元の学習を通して、意見に根拠を添えるだけでなく、適切な根拠を添えた意見となるようにさせたい。また、一人で考えるだけでなく他者の考えに触れることで自分の考えにも奥行きと深みが生まれることを実感させたい。これから社会で活躍するための準備段階である中学校で、論理的思考やそれに基づいた討論をさせるためにも本単元は大変意義深い。</p>	

3 単元の目標

- 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。
【知識及び技能】
- 互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができる。
【思考力、判断力、表現力等】
- 言葉がもつ価値を認識するとともに我が国の言語文化を大切にして思いや考えを伝え合おうとする。
【学びに向かう力、人間性等】

4 単元計画（総時数 4 時間）

時間	学習活動	評価規準
第一次 2時 本時 2/2	1 討論のテーマに沿った、根拠となる情報を集める。	□説得力のある根拠と共に意見をまとめている。 【知識・技能】
	2 意見と根拠をまとめる。意見と根拠の整合性について話し合う。	□意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。 【知識・技能】
第二次 1時	3 討論の流れを確認し、討論を行う。	□互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめている。 【思考・判断・表現】
第三次 1時	4 討論の振り返りを通して、根拠の適切さについて気付いたことを班で伝え合う。	□根拠の適切さを粘り強く考え、学習の見通しをもって意見を伝え合おうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】

5 本時 令和6年10月31日（木） 13：25～14：15 於：2年3組教室

（1）主眼

同じ立場の人と話し合う活動を通して、意見に対する適切な根拠はどのようなものか理解できるようにする。

（2）研究の視点

【着眼1】単元や授業過程における、学習意欲を喚起するための工夫

意見に対する根拠の適切さを実感させるために、意見と根拠が結びついていない例を示す。

【着眼2】「一人学び」や「協働学び」における、自分の考えをつくり、広げたり、深めたりするための ICT 機器の効果的な活用

「協働学び」において、根拠の適切さについての班員の意見を共有したり、班員の意見から自分の考えを深めさせたりするため、共有ノートを用いて考えをまとめさせる。【情報の整理】

（3）準備物

教科書、学習プリント、タブレット、電子黒板

第2学年5組 外国語科学習指導案

直方市立直方第二中学校

指導者 濱田 早苗

1 単元名 「Unit4 Homestay in the United States (NEW HORIZON English Course 2)」

2 単元設定の理由

<p>[単元の価値から]</p> <p>小学校の外国語科の「話すこと[やりとり]」の学習では、基本的な表現を用いて挨拶を交わしたり、感謝の気持ちを伝えたり、自分の身の回りのものについて動作を交えながら自分の考えや、気持ちなどを簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合う活動を行ってきた。</p> <p>中学校の学習指導要領解説には、単に質問に対する返答で対話を終わらせるのではなく、対話を即興で継続・発展させる力をつけることを目標として示している。そのため、2年時では、自分の伝えたいことを話すだけでなく、相手の質問や考えに対して即興で伝え合う力を身につけさせたい。</p> <p>本単元は、日本にホームステイに来る外国人に日本の習慣やマナーを伝えるという活動を通して、表現の能力や、それぞれの国の身近なマナーについて聞いたり伝えたりすることができるようになることをねらいとする。言語材料は、have to, must などの助動詞と、動名詞が取り扱われている。これらを使うことにより、習慣やマナーを伝え合うことが可能になる。また、自国のマナーや日本で生活する上で大切なことについて外国人の立場に立って考えることで理解を深め、日本の文化に対する誇りを持ち、日本の事柄について積極的に他国に発信していく態度を養うという点でも大変意義深い単元である。</p>	<p>[生徒の実態から]</p> <p>事前アンケートによると、本学級の生徒（全36名）は英語の学習について「あなたは英語の授業が好きですか？」という問いに対して、あまり好きではない、嫌いと答えた生徒が、6割程度いた。その理由として、「覚えることが多く何から学習していいかわからない」や「文をどのように組み立てたらいのかわからない」などがあげられた。しかし、「英語の技能の中で1番伸ばしたい技能は何ですか？」という問いに対しては、「話すこと」と答えた生徒が6割近くいた。理由としては、「話せたらカッコいい」や「自分の考えや気持ちを伝えたい」「修学旅行で海外の人と話してみたい」など英語を苦手とする一方、頑張りたいという意欲的な姿も見られた。このことから、英語の学習を頑張りたいという意欲はあるが、重要なポイントが何なのかということや文の組み立て方を理解していないことが分かる。</p> <p>そこで、日本にホームステイに来る外国人にアドバイスをする活動を通して、文を作成する際に、ヒントカードを活用する。そうすることで、英文を構成することが苦手な生徒に対しても、文を作れることへの達成感を味わわせたい。また、AIを活用することで、相手のことを気にせず、自分のペースで学習に取り組むことができたり、英語で話す時間を長くとることができたりする。少しでも、自分の話した英語が相手に伝わることへの達成感や、英語を使って、日本人以外の人とコミュニケーションをとることの楽しさを実感させたい。</p>
<p>[単元の指導にあたって]</p> <p>本単元では、日本にホームステイに来る外国人に日本のルールやマナーを伝えるという活動を通して、表現の能力や、それぞれの国の身近なマナーについて聞いたり伝えたりすることができるようになることをねらいとする。</p> <p>本単元の指導にあたっては、一次と二次では、ホームステイ中にその国のルールやマナーについて、する必要があることやないことを説明したり理解させたりする。その際に、have to と must, don't have to と must not の違いを明確に示し理解させる。三次では、ホームステイでの問題点を知り、解決策を考えさせる。その際、もし自分がホームステイをした場合に起こりうる問題を想像させたり、自国の文化との比較を行わせたりして、当事者意識をもって学習に取り組ませる。四次では、海外の方がホームステイに対して不安に思っている動画を視聴させることで、この1時間で何をすべきか見通しや相手意識をもたせる【着眼1】。また、ChatGPTを活用することで、英語で話す活動の機会を多く設定する【着眼2】。</p> <p>旅行とは異なり、家族の一員として過ごすホームステイではコミュニケーションが重要になる。この単元は、習慣や文化の異なる環境でのマナーやコミュニケーションの難しさについて考えさせるためにも、大変意義深い。</p>	

3 単元の目標

- 助動詞や動名詞の表現を用いた用法を理解し英語で表現することができる。
【知識及び技能】
- 既習の語句や表現、文法事項などの知識を活用して内容を正しくつかみ、相手の質問に対して助動詞や動名詞を用いて答えることができる。 【思考力、判断力、表現力等】
- 日本の習慣やマナーについて聞き手に正しく英語で伝えようとし、また相手の内容を聞き取ろうとしている。 【学びに向かう力、人間性等】

4 単元計画（総時数10時間）

時間	学習活動	評価規準
第一次 2時	○ have to , don' t have to の意味や用法を理解する。 ○ 留学情報サイトを読み、どのような行動をとるべきか本文から読み取る。	□ have to , don' t have to の意味や用法を理解し、本文の内容を理解することができる。 【知識・技能】
第二次 2時	○ must, must not の意味や用法を理解し、身の回りのことではなければいけないことや、してはいけないことについて英語で表現する。	□ have to と must, don' t have to と must not の違いを明確に示し理解することができる。 【知識・技能】
第三次 2時	○ 動名詞の意味や用法を理解する。 ○ ホームステイの感想文を読み、内容をつかむ。	□ 動名詞の意味や用法を理解し、ホームステイの感想の概要をつかむことができる。 【知識・技能】
第四次 4時 1/4	○ 主語になる動名詞の意味や用法を理解する。	□ 主語になる動名詞についての意味や用法を理解することができる。 【知識・技能】
第四次 2/4	○ ホームステイはどのような問題があるのか、体験談が書かれた英文の概要を捉え解決策を考える。	□ 既習の語句や表現、文法事項などの知識を活用して内容を正しくつかみ、相手の質問に対して答えることができる。 【思考・判断・表現】
第四次 本時 3/4	○ 日本にホームステイに来る外国人に日本の習慣やマナーを伝えるためにChatGPTで会話の練習を行う。	□ 既習の語句や表現、文法事項などの知識を活用して内容を正しくつかみ、相手の質問に対して答えることができる。 【思考・判断・表現】 □ 日本の習慣やマナーについて聞き手に正しく英語で伝えようとし、また相手の内容を聞き取ろうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】
第四次 4/4	○ 外国人に日本の習慣やマナーについてのアドバイス活動を行う。	□ 既習の語句や表現、文法事項などの知識を活用して内容を正しくつかみ、相手の質問に対して答えることができる。 【思考・判断・表現】 □ 日本の習慣やマナーについて聞き、に正しく英語で伝えようとし、また相手の内容を聞き取ろうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】

5 本時 令和6年10月31日(木) 13:25~14:15 於:2年5組教室

(1) 主眼

ChatGPTでAIと会話の練習をする活動を通して、助動詞を活用して日本の習慣やマナーについて3往復以上の会話ができるようにする。

(2) 研究の視点

【着眼1】単元や授業過程における、学習意欲を喚起するための工夫

活動の目的や相手意識をもって課題に取り組ませるために、授業の最初に海外の人がホームステイに対して不安に思っている動画を視聴させる。

【着眼2】「一人学び」や「協働学び」における、自分の考えをつくり、広げたり、深めたりするためのICT機器の効果的な活用

英語で話す時間を増やすことや、自分のペースで学習を行うことを目的として、ChatGPTでAIと話す活動を行わせる。【活動の効率化】

(3) 準備

教科書、学習プリント、タブレット

(4) 展開

段階	主な学習活動	指導上の留意点と評価(※)								
見 通 す	1 動画を視聴し、めあてを確認する。	○ 課題意識をもたせ、めあてにつなげるために、○○からの動画を視聴させる。 【着眼1】								
	<p><動画の内容> Hi, I'm ○○○ in America. I'm going to visit Fukuoka in December and live with a host family. I'm nervous because I don't know Japanese manners. Do I have to use chopsticks? I don't know Japanese customs well. Do I have to take off in the house? I want to enjoy my stay with my host family. What Japanese customs should I know?</p> <p>Goal: 日本の習慣やマナー、ホームステイの心構えについて○○にアドバイスをするために、Chat GPTを活用して会話の練習をしよう。</p>									
つ く る	2 アドバイスの内容を考える。	○ 既習事項をすぐに振り返ることができるようにするために、Study Logを活用し、見直しをさせる。 ○ 文を素早く作らせるために、ヒントカードを配布する。								
	(1) どの項目についてアドバイスを行うかを一人1つ班の中で決める。 ・ 食事についてのルールやマナー ・ 家でのルールやマナー ・ 学校でのルールやマナー ・ 公共の場でのルールやマナー									
	<table border="1"> <tr> <td>食事についてルールやマナー</td> <td>家でのルールやマナーについて</td> <td>学校でのルールやマナー</td> <td>公共の場でのルールやマナー</td> </tr> <tr> <td>Pick up the rice bowl when you eat.</td> <td>You have to take off your shoes when you enter the house.</td> <td>We have to clean our classroom by ourselves.</td> <td>You must not make a noise in public places.</td> </tr> </table>	食事についてルールやマナー	家でのルールやマナーについて	学校でのルールやマナー	公共の場でのルールやマナー	Pick up the rice bowl when you eat.	You have to take off your shoes when you enter the house.	We have to clean our classroom by ourselves.	You must not make a noise in public places.	
食事についてルールやマナー	家でのルールやマナーについて	学校でのルールやマナー	公共の場でのルールやマナー							
Pick up the rice bowl when you eat.	You have to take off your shoes when you enter the house.	We have to clean our classroom by ourselves.	You must not make a noise in public places.							

深 め る	(2) アドバイスの内容を考える。	○ すぐにアドバイスが考えられるように、前時までに日本とのマナーの違いを共有ノートでアイデアを出しておく。
	(3) 項目が同じ人と内容を共有する。	○ どんな文法やフレーズを活用したのか共有できるようにするために、項目ごとで集まって話す内容を共有する。
	3 Chat GPT を活用してペアでアドバイスの練習をする。	○ すぐ会話練習に入れるようにするために、プロンプト（指示文）に入れる内容は教員が作成し繰り返し話す活動を行わせる。
	4 クラス全体で会話の内容を共有する。	【着眼2】 ○ クラス全体で会話の内容を共有することで、より多くの表現に触れさせる。
	5 再度会話の練習を ChatGPT で練習する。	○ 何度も練習することで、内容の定着や、会話表現を広げさせる。 ※ 予想される外国人の悩みについて助動詞を活用してアドバイスが書かれている。(学習プリント) 【思考・判断・表現】
	6 本時の学習をまとめる。	
ま と め る	まとめ：助動詞を使うことで、マナーや習慣などを伝えることができる。	
振 り 返 る	7 本時の振り返りを行う。	○ 本時のめあてが達成されたかを、ワークシートに記入させ本時を振り返らせる。

第3学年3組 国語科学習指導案

直方市立直方第二中学校
指導者 竹本 一恵

1 単元名 「君待つと一万葉・古今・新古今」

2 単元設定の理由

<p>【単元の価値から】 生徒はこれまで、短歌や俳句の学習を通して、作品の中の言葉に注目して内容を読み取るということを学習してきた。そして、作品に描かれた心情や情景を表現するために、現代語訳や鑑賞文を参考にして、自分なりの解釈をしてきた。 本単元では、中学校の古典学習の総仕上げとして、時代背景は違っても、人や自然に対する思いは共通であることを知り、古典の世界と現代がつながっていることに気付かせたい。 学習指導要領解説には、表現の仕方を考える際には、目的や意図、題材などに合わせて、既習した表現に係る様々なことを活用しながら工夫することが重要であると示されている。「和歌」は、限られた字数の中で作者が伝えたいことを直接的あるいは間接的な表現で表しているため、和歌の中の言葉から様々な思いを想像することができる。 本教材は、五七五七七という短い音律の中に豊かなイメージを圧縮して表現している。そのため、生徒は和歌の背景を想像することを通して、作者の思いに触れることができる。また、一人一人が想像したことを交流することを通して、様々なもの見方や考え方に触れることもできる。洗練された作者の言葉や表現に触れ、現代との共通点や相違点を考えさせることで、より古典の世界に親しむこともできるため、本単元の学習は大変意義深いと考える。</p>	<p>【生徒の実態から】 事前アンケート（全30名）によると、俳句や和歌の授業と文学的な文章や説明的な文章の授業を比較した場合、本学級の79%の生徒が俳句や和歌の授業の方が理解しやすいと回答している。その理由として、「内容に親しみやすく、言葉の意味を勉強することで、作品に描かれた世界を自分で想像することができるから」「短くて読みやすく現代語訳を読むことで意味がわかるから」という意見が挙げられた。一方、文章読解を選んだ生徒からは、「文章や言葉が多くて理解しやすいから」という理由が挙げられた。 短歌や俳句の学習では、解説文から得た知識を基に、それぞれの感性で歌や句を読み味わい、言葉で表現しなくてもわかることは省略するということを学習している。しかし、古語を用いた和歌の学習では、言葉の意味を理解できず、心情や情景を想像するということまで至らないことが考えられる。 そこで、同じ和歌を選んだ生徒同士でグループとなり、個々の視点で書いた鑑賞文を読み合う活動を通して、どの言葉に着目するかで和歌の読み取り方が変わってくるということを味わわせたい。また、同じ言葉を選んだ場合でも、その言葉を基に想像する心情や情景が、読み手の感性によって違い、もの見方や考え方には様々なものがあることを知り、それらを自分の中に取り入れることで、表現の幅が広がるということを実感させたい。</p>
<p>【単元の指導にあたって】 本単元では、それぞれの歌が詠まれた状況や歴史的背景を踏まえながら、表現の工夫などに着目し、古典の世界をより深く楽しく味わうと共に、古典を学ぶ意義についても考えを深めさせ、現代を生きる自分達を振り返るきっかけにすることをねらいとしている。 本単元の指導にあたっては、第一次では、それぞれの歌集の背景となっている時代の様子や作者が置かれていた状況を理解させる。そのために、成立年代・主な歌人や歌風などを比較できるように、表にまとめさせる。そして、各歌集から気に入った歌を1首ずつ選び、キャンディチャートを使って、心情や情景、登場人物をまとめさせる【着眼1】。第二次では、第一次で選んだ歌の中から1首に絞り、鑑賞文を書かせる。そのために、和歌の中の気になる言葉や表現方法を選ばせ、それらを根拠に心情や情景を想像させる。「協働学び」の段階で、同じ和歌を選んだ生徒同士をグループとし、各自が書いた鑑賞文を読み合わせる。その交流の中で、どの言葉に着目するかによって、同じ和歌でも見え方が違ってくることに気付くことができるようになることを考える。その際、比較しやすくするために、現代と昔の共通点・相違点に着目して、鑑賞文を読み合わせる【着眼1】。また、同じ言葉を選んだ場合でも、その言葉を基に想像する心情や情景が違ってくることにも気付かせたい。そのために、他者の意見がわかるように、共有ノートの良いと思った表現に線を引かせる。【着眼2】。 本単元の学習を通して、言葉や表現を手掛かりに心情や情景を想像させるだけでなく、意見交流をするなかで、自分では気付かなかったもの見方や考え方を知り、和歌を味わう楽しさを実感させたい。また、共感した表現から、自分との接点を見出し、和歌を自分とのつながりの中で味わわせたい。</p>	

3 単元の目標

- 歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。
【知識及び技能】
- 和歌の表現のしかたについて評価することができる。 【思考力、判断力、表現力等】
- 言葉がもつ価値を認識するとともに、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとしている。
【学びに向かう力、人間性等】

4 単元計画（総時数 4 時間）

時間	学習活動	評価規準
第一次 1時	1 ①「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」それぞれの歌集の特徴を捉える。 ②3つの歌集の中で、特に印象に残った和歌を1つずつ選び、キャンディチャートを使って、心情や情景、登場人物をまとめる。	□3つの歌集の歌を比較し、それぞれの作者の心情や情景を想像している。 【知識・技能】
第二次 3時 1/3	2 1②で選んだ和歌の中から1つに絞り、現代語訳や脚注を基に、鑑賞文を書く。	□進んで和歌の表現の仕方について評価し、見通しをもって鑑賞文を書こうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】
本時 2/3	3 鑑賞文を読み合い、推敲してより良い表現にし、1つの和歌の鑑賞文を完成させる。	□鑑賞文に表れているものの見方・考え方から、人間や社会、自然などについて、自分の考えを持ち、鑑賞文にまとめている。 【思考・判断・表現】
3/3	4 各自で作成した鑑賞文と、作者の伝えなかったことを比較しながら、それぞれの和歌の大意や情景を知る。	□歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。 【知識・技能】

5 本時 令和6年10月31日（木） 13:25～14:15 於：3年3組教室

(1) 主眼

互いが書いた鑑賞文を和歌中の言葉や表現方法、現代語訳に着目して読み合う活動を通して、和歌に詠まれた心情や情景を想像することができるようにする。

(2) 研究の視点

【着眼1】単元や授業過程における、学習意欲を喚起するための工夫

自分の鑑賞文を推敲する視点をもたせるために、和歌中の言葉に着目させ、同じ和歌を選んだ友達の鑑賞文との共通点や相違点に気付かせる。

【着眼2】「一人学び」や「協働学び」における、自分の考えをつくり、広げたり、深めたりするためのICT機器の効果的な活用

「協働学び」において、多様なものの見方・考え方があることに気付き、表現の幅を広げるために、共有ノートを用いて意見を交流し、他者の考え方や表現方法の工夫をお互いに確認できるようにする。【情報の共有】

(3) 準備

教科書、ノート、タブレット、資料

(4) 展 開

段階	主な学習活動	指導上の留意点と評価(※)
見 通 す	1 前時の学習内容を振り返り、本時の学習課題をつかむ。 2 本時のめあてを確認する。	○ 生徒と本時で目指す姿を共有するために、本時の流れを確認させる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> めあて 同じ和歌を選んだ人達の考え方や表現方法を取り入れ、自分の鑑賞文をよりよいものに仕上げよう。 </div>	
つ く る	3 グループで互いの鑑賞文を読み合い、それぞれの良いと思った表現に線を引く。線を引いた理由を、1人ずつ発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 予想される生徒の反応 ・私は「さらさらに」をそのまま、さらさらするという意味で受け取ったけれど、Aさんは「さらにさらに」と受け取っていて、そのような捉え方もあるのだと感じた。 </div>	○ 自分が書いた鑑賞文との共通点や相違点に気付かせるために、読み合う際に、和歌中の言葉に着目させる。【着眼1】 ○ 同じ言葉を用いて鑑賞文を書いていた場合、表現の仕方の違いに気付かせるために自分が書いた理由と比較させる。 ○ 意見交流の際に比較する視点をもたせるために、和歌に関する資料を提示し、現代と当時の時代背景等の違いに気付かせる。
深 め る	4 共有ノートに書き込んだ線を基に鑑賞文を完成させる。 (1) 意見交流で出てきた意見を基に各自の鑑賞文に付加修正をする。 (2) 全体で各グループの鑑賞文を交流する。	○ 鑑賞文中の表現を、よりわかりやすくするために、付加修正する際は、共有ノートに書き込まれた意見を用いさせる。【着眼2】 ※ 友達の考えを参考にしながら、和歌に詠まれた心情や情景を豊かに想像している。 (ロイロノートの記述)【思考・判断・表現】
ま と め る	5 本時の学習をまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> まとめ 和歌の中の言葉の意味を様々な角度から考えることで、作者が伝えたかった心情や情景をより豊かに捉えることができる。 </div>	
振 り 返 る	6 本時の学習を振り返る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 予想される生徒の反応 ・同じ言葉でも、人によって捉え方が違うので、どうしてそのように捉えたのかという理由を聞くことで、新しい見方を知ることができた。 </div>	○ 本時で学習したことを今後の学習につなげさせるために、作者の表現の工夫に着目することの重要性を再確認する。

第3学年4組 外国語科学習指導案

直方市立直方第二中学校
指導者 山岡 夏枝

1 単元名 Unit4 Be Prepared and Work Together (NEW HORIZON English Course 3)

2 単元設定の理由

<p>[単元の価値から]</p> <p>グローバル化が急速に進む現代において、我々国民一人一人にとって異文化理解や異文化コミュニケーションはますます重要である。そのため、今後の英語教育において、外国語に関する知識・技能を活用し、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図るための資質能力を養うことが求められる。</p> <p>本単元は、言語材料として間接疑問文、現在分詞、過去分詞を取り扱う。間接疑問文は、疑問詞を使い詳しい場所や時、理由を伝えることができる。また、現在分詞、過去分詞を使うことで人や物をさらに詳しく相手に伝えることができる。</p> <p>本単元のねらいは、防災というテーマを通して、日本に住んでいる外国人が多くいる災害の中で様々な困難に直面していることについてのニュースを読み、外国人がどのようなことに困っているのかを知り、日本人として意欲的に英語を用いて支援の方法について発信しようとすることである。さらに、若菜市の外国人支援の取組内容が紹介されており、災害への備えの意識を育むこと、災害時に外国人も含め、いかに地域で助け合っていくか、ということにも焦点が当てられている。そのため、本単元を通して、自己を守り、同時に他者を守るという他者を思いやる意識も育てることができるといえる点においても大変意義深い単元である。</p>	<p>[生徒の実態から]</p> <p>本学級のほとんどの生徒は、音読やプリント学習に意欲的に取り組むことができている。また、これまでに生徒は二中の先生紹介や世界遺産についての紹介等の活動を経験している。</p> <p>しかし、事前アンケートによると、本学級の生徒(全39人)のうち、「話すこと(発表する)」を苦手とする生徒は4割いる。また、1学期に行った自己紹介テストにおいてC評価の生徒は3割程度いた。苦手な理由として、「発音があっているか不安になる」、「発表のとき流暢に話せない」、「緊張してしまう」などがあつた。また、様相観察から、自分の考えや意見を言ったり、考えを書いたりすることは積極的に活動に取り組むが、発表する活動においては聞き手を意識して展開や構成を工夫して発表する姿はあまりみられない。</p> <p>そこで、発表の練習段階では、班活動の学習形態を活用し、練習の様子をタブレットで録音させ班で改善点を考えることで、より相手に伝わりやすくなるようにしようとする意欲を高めていく。また、班で音声ガイドを作成することで発表することが苦手な生徒も苦手意識をもたず活動に参加できるようにする。</p>
<p>[単元の指導にあたって]</p> <p>本単元では、防災というテーマを通して、日本に住んでいる外国人が多くいる災害の中で様々な困難に直面していることについてのニュースを読み、日本人としてどのような支援ができるか考え、簡単な語句や文を用いて表現しようとする姿勢や意欲を高めることがねらいである。</p> <p>本単元の指導にあたっては、第一次では、防災への意識を高めるために、外国人市民意識調査とその結果について書かれた文章の概要を捉えさせ、外国人が防災に対してどのような意識をもっているか現状を理解させる。さらに、間接疑問文の表現を学習することで、どこへどのように避難すべきかについて相手に説明することができることに気付かせたい。第二次では、動詞+人+whatなどで始まる節で相手に質問する活動を通して定着を図る。第三次では、日本で地震にあった外国人の体験談について書かれた文章の要点を捉え、どのように支援すべきかを考える。さらに、現在分詞を学習することで、詳しい情報を付け加えて相手に分かりやすい説明をすることができることに気付かせたい。第四次では、外国人支援の取組について書かれた文章の要点を捉え、どのような支援が行われているか理解させる。第五次では、災害時の外国人支援のために、直方第二中学校の近くのハザードマップについてALTに発表する活動をさせる。その際、生徒にとって身近な外国人であるALTが、災害時に困ったことについて話している動画を視聴させることで課題に対する意欲を高めることができるようにする【着眼1】。また、各自がつくった原稿を改善することができるようにするために、班で原稿を共有し、アドバイスを考えさせる【着眼2】。発表練習の過程では、班活動の学習形態を活用し、練習の様子をタブレットで録音させ班で改善点を考えることで、より相手に伝わりやすくなるようにしようとする意欲を高めていく。発表を苦手とする生徒のために、改善点をもとに、原稿を練り直したり発表練習をしたりする時間を十分に確保し、発表させる。</p>	

3 単元の目標

- 間接疑問文 SV00(what 節)の文、現在分詞・過去分詞を用いた文の意味を理解することができる。 【知識及び技能】
- 災害時に外国人が安全に避難できる方法について、簡単な語句や文を用いて話すことができる。 【思考力、判断力、表現力等】
- 災害時に外国人が安全に避難できる方法について、簡単な語句や文を用いて話そうとしている。 【学びに向かう力、人間性等】

4 単元計画（総時数 11 時間）

時間	学習活動	評価規準
第一次 2時	1 外国人が安全に避難できるように、間接疑問文を使い、ハザードマップの見方を英語で表現する。 2 外国人市民意識調査とその結果について書かれた文章の概要を捉える。	□間接疑問文を用いた文の形・意味・用法を理解している。【知識・技能】
第二次 2時	3 動詞+人+whatなどで始まる節を使い、どこにあるかや、どのように行動するかを伝える。 4 登場人物の2人の会話の概要を捉える。	□SV00(what 節)を用いた文の形・意味・用法を理解している。 【知識・技能】
第三次 2時	5 現在分詞を使い、詳しい情報を加えて表現する。 6 日本で地震にあった外国人の体験談について書かれた文章の要点を捉え、どのように支援すべきかを考える。	□現在分詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。 【知識・技能】
第四次 2時	7 過去分詞を使い、詳しい情報を加えて表現する。 8 外国人支援の取り組みについて書かれた文章の要点を捉え、どのような支援が行われているか知る。	□過去分詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。 【知識・技能】
第五次 3時 本時 1/3	9 ALTが災害時に困ったことについて話している動画を視聴し、ALTにハザードマップについて説明するための発表原稿を作成する。	□災害時に外国人が安全に避難できる方法について、間接疑問文を用いて書くことができる。 【思考・判断・表現】
2/3	10 ・原稿の修正 ・発表練習をする。	□災害時に外国人が安全に避難できる方法について、簡単な語句や文を用いて話そうとしている。
3/3	11 ALTに発表する。	【主体的に学習に取り組む態度】

5 本時 令和6年10月31日(木) 13:25~14:15 於:3年4組教室

(1) 主眼

ALTにハザードマップについて説明できるようにするために、発表原稿を作成する活動を通して、間接疑問文を用いて避難場所や地図記号についてより詳しい情報を入れた説明文を作ることができるようにする。

(2) 研究の視点

【着眼1】 単元や授業過程における、学習意欲を喚起するための工夫

課題に対する意欲を高めることができるようにするために、日本に住む外国人が、災害時に困ったことについて話している動画を視聴させる。

【着眼2】 「一人学び」や「協働学び」における、自分の考えをつくり、広げたり、深めたりするためのICT機器の効果的な活用

「協働学び」において、各自がつくった原稿を改善することができるようにするために、ロイロノートの共有ノートを活用し、班で原稿を共有し、アドバイスを考えさせる。

【情報の整理】

(3) 準備

教科書、ファイル、学習プリント、タブレット

(4) 展開

段階	主な学習活動	指導上の留意点と評価(※)
見通す	<p>1 前時の学習を想起する。 (1)単元の文法や単語の確認 (2)動画を視聴する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;"><動画の内容></p> <p>Hello. I am Martin. I have lived in Nogata for three years. I think there are many natural disasters in Japan, such as earthquakes and floods. Recently, I checked Nogata city's website and found a hazard map. But, I couldn't understand the hazard map. There are many map symbols and many red and yellow areas. What are these? Also, I want to know where the local shelters and what I should prepare for in an emergency evacuation.</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 英文を作成することが難しい生徒を支援するために、全体で単元を通して学んだ表現や災害についての単語を確認する ○ 課題に対する意欲を高めることができるようにするために、日本に住む外国人が、困ったことについて話している動画を視聴させる。【着眼1】 ○ 相手意識を持って課題に取り組むために、前時までに作成した説明文が外国人の困っている点を解決する内容になっているかを確認させる。

まとめる	<p>予想される生徒の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下線のところの語彙順が間違っている。 ・学校が避難所として使われていることは知らないはずだから、そのことも書いてあげると良い。 <p>(3) アドバイスをもとに修正する</p> <p>〈避難所の場所について書いた生徒の修正版〉 I teach you where the shelters are. School is used the designed evacuation shelter. So you should remember school sign and where school are</p> <p>6 まとめをする</p> <p>まとめ 間接疑問文を使うと、地図記号や避難場所、危険な場所等をより詳しく説明することができる。</p>	<p>○ アドバイスをするのが難しい生徒が考えやすくするために、アドバイスの視点を与える。</p> <p>視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ①文法・単語の誤りはないか ②書いている英文はわかりやすいか ③さらに詳しく説明する必要があるところはないか <p>※ 災害時に外国人が安全に避難できる方法について、間接疑問文を用いて書くことができる。(ロイロノートの記述)</p> <p>【思考・判断・表現】</p>
	振り返る	<p>7 本時の学習の振り返りをする</p>

第3学年6組 社会科学習指導案

直方市立直方第二中学校

指導者 政枝 祐亮

1 単元名 「現代社会を捉える枠組み（夏休みの適切な日数を考えよう）」

2 単元設定の理由

<p>[単元の価値から]</p> <p>私たちは、実生活のあらゆる場面において大なり小なりの社会集団に属している。その集団は、互いに異なった考え方をもち個人が集まった共同体であり、そこでは互いがより良く生活できるようにするために個々が思案している。過去から現在に至るまで、人は集団に属さずに生活することは極めて困難なことであり、自己が属する集団でどのような考え方をもち他者と協調していくのが生活を豊かにするためには大切である。そのため、本単元は、社会に属する一個人としての在り方等を学ぶ単元として重要である。また、中学校社会科としての位置づけにおいても、社会科三分野の最後である公民的分野の基礎的考え方の知識・技能の習得という意味で大切な内容である。</p> <p>本単元は、人間は社会的存在であることに着目させ、身近な問題を解決していく中で、社会生活における対立が話し合いによって合意に至ることの重要性を捉え、社会に対する見方・考え方を高めることをねらいとしている。具体的な学習内容は、対立と合意、効率と公正、社会生活における物事の決定の仕方、きまりの意義についてである。前述の通り、社会における仕組みと自己の生活をより良くするための方法を学ぶことは、現在および未来を生きる中学生にとっては大変意義深い。</p>	<p>[生徒の実態から]</p> <p>本学級の生徒（全39人）に三つの質問からなる事前アンケートをとった。その結果によると、社会科の学習に対して肯定的な意見をもっている生徒は33人（84%）であり、否定的もしくは不得手としている生徒は6人（14%）であった。肯定的な意見の理由は「未知な事柄を知ることができる」や「歴史の流れや出来事を学習することが楽しい」と答える生徒が多数であった。否定的な意見をもつ生徒の理由は「様々な角度から考えることが苦手」というものがあつた。また、学習活動についての質問では「小集団での話し合いで課題を解決することに喜びを感じる」という回答を示した生徒が35人（89%）にも及んだ。さらに、本単元にかかわる質問である、「他者と意見が分かれた際、どのように決めるべきか」という質問に対しては「じゃんけん」や「多数決」と回答する生徒が多く、短絡的な決定方法を望む傾向にあることが分かった。</p> <p>以上のアンケート結果から、社会科の学習において、他者と協働的に学ぶことが楽しく、主体的な学びにつながるであろうことが考えられる。しかし、他者との学びが教授的なものでなく、相互に関わりあいながらより深い学びとなることが望ましいので、より生徒に密接かつ真正な課題設定が必要であると考える。</p>
<p>[単元の指導にあたって]</p> <p>本単元では、生徒たちに密接な関わりかつ、最近の社会的論争問題である「夏休みの日数」について、効率と公正の考えを使いながら、対立を合意へと向かう難しさを感じさせ、社会生活における物事の決定の仕方やきまりの役割について多面的・多角的に考察し、表現できるようにすることをねらいとしている。</p> <p>本単元の指導にあたっては、第一次では、身近な生活から「対立と合意」と「効率と公正」について考え、理解する。そして第二次では、単元課題の「夏休みの日数は何日が妥当であるか」【着眼1】という問いを提示し、多面的・多角的に課題解決に向かわせる。その際、恣意的な感情が入らず、社会認識のもと表現ができるようにするために、論争にかかわる様々な資料を準備する。そして、考えた日数をもとに、何日が妥当であるのかを全体で考えさせる。その際、本単元のねらいを達成するために、どのような決定の仕方が望ましいのかをまずは話し合わせ、その決定の仕方のもとに合意に向かわせる。また、ここでも恣意的な発言がでないようにする。そのような学びが展開されるための手立てとして、ロイロノートを活用することで、他者の意見を参考にして、自己の意見が構築されるようにする【着眼2】。最後に第三次では、第二次までの学習内容を振り返りながら、対立を合意に向かわせるためには「効率」と「公正」という考え方が必要不可欠であることを捉えさせる。その際、ねらいが達成できたのかを確認するために、違った課題を提示し合意するようにさせる。</p>	

3 単元の目標

- 現代の社会生活について、個人と社会との関わりを中心に理解を深めるとともに、諸資料から現代の社会的事象に関する情報を効果的に調べまとめることができる。
【知識及び技能】
- 現代の社会生活について、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察する力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりすることができる。
【思考力、判断力、表現力等】
- 私たちと現代社会について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。
【学びに向かう力、人間性等】

4 単元計画（総時数4時間）

時間	学習活動	評価規準
第一次 1時	1 身近な生活から「対立と合意」と「効率と公正」について考え、理解する。	□現代社会の見方・考え方の基礎となる概念的な枠組みとしての対立と合意、効率と公正を理解している。 【知識・技能】
第二次 2時 1/2	2 「夏休みの日数は何日が妥当なのか」（単元課題）を考える。	□人間は社会的存在であり、互いの個性や考え方を尊重し合って生活するためにはきまりが必要であることを理解しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】
本時 2/2	3 対立した意見を合意までもっていくための方法を考える。	□対立を解消し合意するための望ましい方法について、多面的・多角的に考察し、適切に表現している。 【思考・判断・表現】
第三次 1時	4 単元課題を結論づけ、学習内容をまとめる。	□きまりを評価、変更するときの5つの視点にもとづいて、きまりの評価を行い、権利や利益、問題点などについて多面的・多角的に考察し、適切に表現している。 【思考・判断・表現】

5 本時 令和6年10月31日（木） 13:25～14:15 於：3年6組教室

（1）主眼

「夏休みを何日間にするのが妥当なのか」という話し合いを通して、社会生活における物事の決定の仕方について他者の意見も踏まえ、多面的・多角的に考察し、表現することができるようにする。

（2）研究の視点

【着眼1】単元や授業過程における、学習意欲を喚起するための工夫

生徒に学習意欲をもたせるために、生徒自身に直接関わりのあることを考えさせ、生徒が出した意見を校長先生に提案することを伝える。

【着眼2】「一人学び」や「協働学び」における、自分の考えをつくり、広げたり、深めたりするためのICT機器の効果的な活用

「協働学び」において、自分の意見を再構築することができるようにするために、生徒が考えた意見をロイロノートに提出させ、他の生徒の考えにも触れさせる。

【考えの共有】

（3）準備

教科書、学習プリント、タブレット、資料

(4) 展開

段階	主な学習活動	指導上の留意点と評価(※)
見 通 す	1 前時の学習内容を振り返り、本時の学習課題をつかむ。 2 本時のめあてを確認する。	○ 生徒と本時で目指す姿を共有するために、生徒とのやり取りを通してめあてをつくる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> めあて 現代社会で議論されている対立事項について、様々な面や立場から考え、合意を目指すには何が大切なのか考えよう。 </div>	
つ く る	3 前時で出てきた意見や平均を知 る。 4 資料を基に、再度夏休みは何日間 が良いかを考える	○ 本時の学習意欲を喚起するために、生徒達に直接関わりのあることを考えさせ、生徒が出した意見を校長先生に提案することを伝える。【着眼1】 ○ 効率と公正という考えとして捉えさせるために、生徒に自分の感情を入れないようにあらかじめ伝えておく。
深 め る	5 班で意見を交流する。 (1) 個人の考えを発表する。 (2) 班で1つの意見にまとめる。 (3) 全体で発表する。	○ 生徒がいろいろな立場を踏まえて考えやすくするために、様々な資料を提示する。(経済面、衛生面、電気使用量、授業時数の確保、食事の準備等)
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 予想される生徒の反応 ・夏休みは、できるだけ多くほしいが、夏休みが多くなりすぎると、授業時数が足りなくなってしまうため、ほどよいのが理想である。 ・現在の日本の夏は非常に暑いため、登下校中に熱中症にならないためにも夏休みは、長くすべきである。 </div>	
ま と め る	6 合意するための方法を考える。 (1) 個人の考えを発表する。 (2) 班で1つの意見にまとめる。 (3) 全体で発表する。 7 本時の学習をまとめる。	○ 他の生徒の考えを参考に意見の再構築をするために、ロイロノートに自分の意見を提出させる。【着眼2】
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> まとめ 1つの考えを優先しようとする、他の考えが反映されなくなるため、よく話し合い、できるだけ多くの人が納得するような折衷案を考えられることが大切である。 </div>	
振 り 返 る	8 本時の学習を振り返る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 予想される生徒の反応 ・皆の意見はどれも正論だと思うから、全員の意見を合意することは難しい。しかし、誰もが納得する意見を出す必要があるため、相手の立場に歩み寄ることが大切だと思った。 </div>	○ 本時の学習の成果を実感させるために、合意する手段にはどのような方法があるのかをワークシートに記述させる。 ※ 合意するための方法について多面的・多角的に考察し、適切に表現している。(学習プリントの記述)【思考・判断・表現】

